

自ら命を絶たずに済む社会へ



大学生と市が意見交換

令和6年12月、麗澤大学の学生と柏市福祉政策課とが自殺予防について意見交換を行いました。

麗澤大学では、地域と連携して学習する機会を創出しています。

今回、自殺予防のテーマを選んだ学生の代表者2名が教授と共にお越し下さいました。「どうしたら自殺を減らせるのか考えたい」とそのテーマを選んだのだそうです。

学生から「悩んでいても口に出せず、自殺につながるのでは」との意見が出ました。実際、誰にも相談することなく一人で悩みを抱え込んでいる人が潜在的に少なくありません。市でも、相談体制の整備を進める一方で、自ら助けを求められずにいる人たちへの対策を重要な課題と捉えてきました。

そこで市が注目したのが「ゲートキーパー」です。身近につらそ

柏市では研修を年5回開催



柏市では年に5回程度、市民や支援者向けに、ゲートキーパー養成研修を開催しています。「身近な人への寄り合い方が分かった」等、参加者から数多くの反響が届いています。

令和7年の研修情報は春頃に柏市のホームページにて公開予定です。



検索
↓

柏市 ゲートキーパー



うな人がいたら声をかけて話を聴き、必要に応じて相談窓口につなぐ役割・概念のことをそう呼びます。資格や職業ではありません。市民一人一人が身近な誰かのゲートキーパーとなることが多くの命を守ることに繋がると考え、市民に向けて普及啓発を行っています。

初めてゲートキーパーを知った学生から「学校の道徳の授業で子どもたちにも知ってもらいたい」「インスタやTikTokなどの縦型動画で発信したらどうか」といった意見が挙がりました。

命を絶とうとするまで追い込まれないため出来ること。孤立予防、精神疾患に対する理解の普及、生活困窮の解消、犯罪被害の予防など、課題は沢山あります。ご遺族の方々への支援も大切です。一時間半に及ぶ意見交換、話は尽きませんでした。

地域に増やそう

市民サポーター立ち上げ

令和6年、柏市ゲートキーパー普及啓発サポーター「フキユーズ」が発足されました。実践的な研修を修了した市民が地域にゲートキーパーを増やすことを目的に、サポーター登録をして活動するというものです。

登録資格を得られる研修は、柏市のホームページにて情報が公開されています。

